

## 自主研究会活動報告

平成 30 年 7 月に自主研究会選定委員会が開催され設置が承認されました 1 グループの研究概要を紹介いたします。

### 関西の道と文化研究会

#### 1. 研究会の概要

##### 1) 研究テーマ

「歴史的、文化的な視点で人と道、生活と道の関わりを研究」

##### 2) 研究概要

近年、都市間競争の激化に伴い、各都市では道路を活用した新たな公共空間を活用した都市魅力の向上を目指し、クルマ中心であった道路を人中心の道へと様々な方法で道路空間の再編が進められている。今後、一層の進展が想定される「人中心の道づくり」をふまえ、これからのあるべき道路の姿とともに、これまでの道の歴史的背景や道が人びとの暮らしや文化活動に寄与した内容がどのようなものであるかについての研究を行うものとしている。

##### 3) 構成員(平成 31 年 3 月現在)

代 表：山口敬太

〔京都大学大学院 工学研究科〕

幹 事：清水勝民〔総合調査設計株〕

研究員所属

：和歌山大学、大阪市建設局、  
神戸市建設局、  
奈良県県土マネジメント部、  
株日建設シビル、大阪ガス株、  
株地域計画建築研究所（アルパッ

ク）

※研究員については、引き続き参加者の呼びかけを行う予定。

#### 2. 活動報告

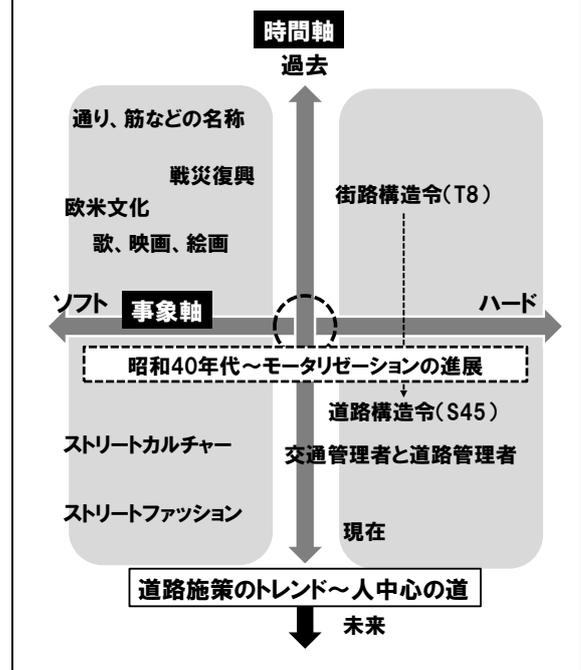
##### 1) 研究会の開催

研究テーマとしている「文化」は、生活文化、芸術文化、大衆文化など、様々な定義が存在する幅広いものであることから、研究を進めていくにあたっては、まず研究の軸とする内容議論を行っている。



写真－1 研究会開催風景

- 道路空間デザインの根拠としての歴史
- 道のにぎわいの歴史（自動車の登場以前の道、市、祭、イベント）
- 沿道のまち・建築のあり方
- 道利用の文化の違い（日本人と欧米人、祭りとオープンカフェ）
- 道と大衆芸能（歌、映画）、芸術（絵画、写真）との関わり
- ストリートカルチャー（音楽：アメリカハーレム地区／ファッション）
- 道の設計基準（近世の道、軌道、街路構造令（大正 8 年）、道路構造令（昭和 45 年））、交通管理と道路管理の歴史
- パス、ストリート、アベニュー、ロード～通り、筋などの名称の由来
- 道のデザインや施策等の歴史、設計者の思い・過去の道づくりのあり方



図表－1 研究テーマに関する主な意見と時間の関係（下図：議論用資料）

このように道路と文化の関係について様々な意見や考え方が確認されたが、研究のアプローチとして「道のデザインや施策等の歴史、設計者の思い・過去の道づくりのあり方」について資料や事例の収集、関係者ヒアリング等を通じながら、道と文化の関係について掘り下げて研究を行うものとした。

施策例としては、史跡や古くからの道筋などを結ぶモデルコース「大阪市史跡連絡遊歩道（歴史の散歩道）」があげられる。この史跡連絡道は現在においても淀川・江口コースをはじめとした5つのコースがウェブサイト等で公開されているが、その歴史は古く1974年に最初の史跡連絡道である「森之宮勝山コース」が整備工事に着手されている。

それから45年が経過していることになるが、現地のサインの更新が行われる等、時代にあわせて変化を遂げてきた点などについて、その当時の関係者にヒアリング等を行い、思いや考え方などについて史跡連絡道を中心に様々な施策の経緯の取りまとめを行っていきたいと考えている。



写真-2 当初のサイン



写真-3 更新後のサイン

## 2)交通問題調査委員会取組み事業への参加

本研究会でのその他の活動として、交通問題調査委員会取組み事業への参加を行っている。下表にその概要を示す。

開催日	内容
平成30年 10月17日	・「平成30年度 第1回みちづくり・まちづくりWS（大阪市）～京阪神堺4都市連携ワークショップ～」の参加ならびに活動の報告
平成31年 3月18日	・平成31年度活動に関する意見交換ならびに海外事例報告会の参加

図表-2

### 交通問題調査委員会取組み事業への参加



写真-4 みちづくり・まちづくりWS